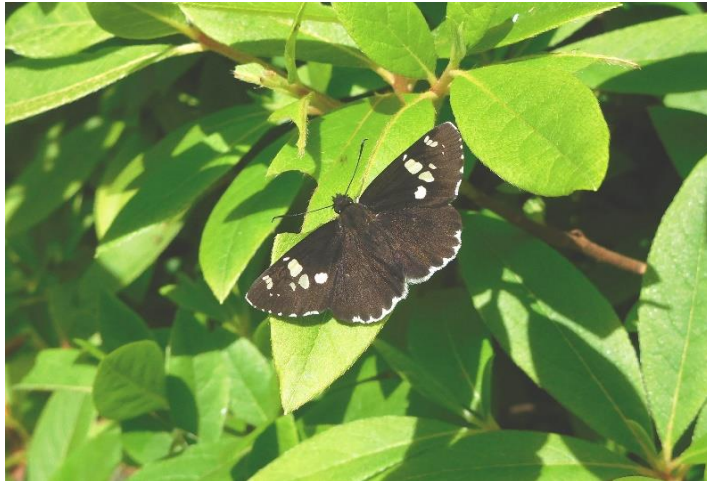


和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ダイミョウセセリ	セセリチョウ科	セセリ的でないセセリ	○	○	○	全国



川崎市 5月1日(2019年) 羽化したと思われる



横浜市 4月16日(2023年) こちらも新鮮な個体



オオミズアオ 川崎市 8月25日(2017年) いわゆる「蛾」ハイムの玄関でも朝時々見かける。「夜活動、とまるとき羽を開く、触角が櫛(くし)状、胴体が太い」という条件にはあてはまる

成虫発生時期(月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○食草			食樹			発生回数/年		越冬形態			
ヤマノイモ、ナガイモほか						3		幼虫			

イチモンジセセリやアオバセセリといった胴太の「セセリ体型」に比べると胴は細くすっきりして、羽も体の割に大きいのでシロチョウやシジミチョウといった普通の蝶に近い印象を受けます。

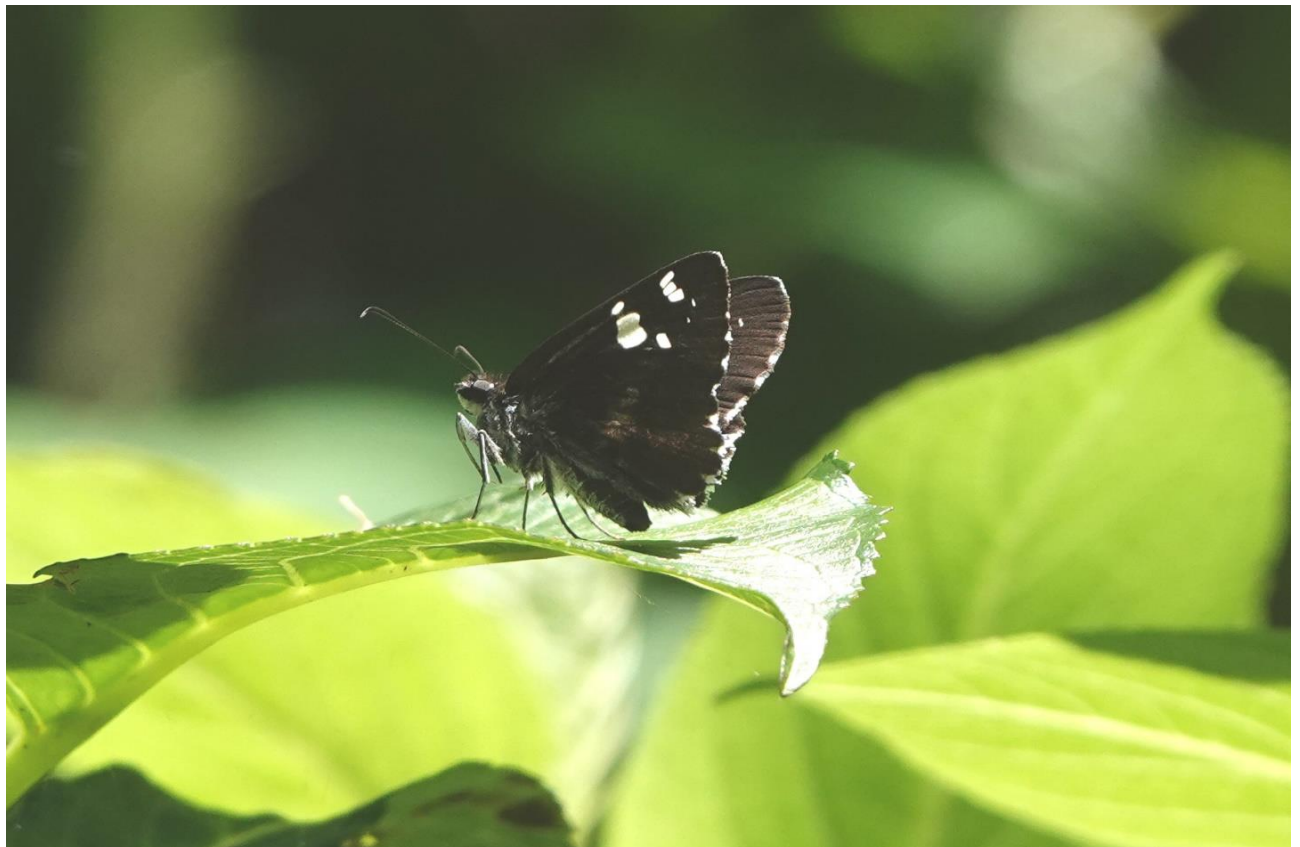
学者によってはセセリは蝶ではないという人もいます。また、一方、昔々を思い出すと、小学校の理科で蝶と蛾の違いを習いました。「蝶は昼活動する、とまるとき羽を閉じる、触角がこん棒状、胴体が細い・・・」。今でもこんなことを教えているのでしょうか？英語でも蝶(butterfly)と蛾(moth)と分かれていて同じような説明がされています。

しかし、それぞれの区別項目には例外が山ほどあり、そもそも生物学的には二つを分ける意味はなく、フランス語には総称してPapillon(パピヨン)という言葉がありますのみです。また、ドイツ語でも同様に区別はしないそうです。

ただ、日本語を大事にすると言う観点からは蝶と蛾という言葉があって、上記のような大まかな見分け方はあるが、例外だけであること、そもそも分けること自体にも余り意味はないということは知識として知っておいてよいでしょう。



八王子市 5月17日（2020年） オオムラサキツツジで吸蜜



八王子市 5月17日（2020年） 山頂でテリトリーを張って縄張りに侵入するアゲハマまで追尾して追い出していた